

■ 教育目的

現代は情報化社会であり、インターネットの普及に伴い、誰でも簡単に大量の情報を様々な手段で得ることができるようになった。そこから得られる情報は、全て電子化され、それらを受信・処理・発信するコンピュータは、現代社会において、既に無くてはならない機械となっている。身近なコンピュータであるパソコンは、文字や数値だけでなく画像など様々なタイプの情報を簡単に処理できる道具である。

薬剤師や創薬研究者は、情報の収集・解析・加工・蓄積・提供など高度な情報処理活動が必要とされる業種である。本演習の目的は、コンピュータを日常の道具として不自由なく利用し、さまざまな用途に活用できる能力を獲得することである。

【卒業認定・学位授与の方針:YD-②、SD-①、②】

■ 学習到達目標

1. 情報処理の基礎知識を習得する。
2. 大学や社会において一般に用いられているソフトウェア（Word, Excel, Power Point）を活用できるようになる。
3. 化学や生物学分野で用いられているソフトウェア（ChemOffice）を用いて、化学構造を書けるようになる。また、タンパク質立体構造表示で用いられているソフトウェア（PyMol）を用いて、タンパク質立体構造を表示し、画像として保存できるようになる。
4. Web ページを作れるようになる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：Web で公開している資料などを事前に確認し、実習するソフトウェアの操作に予め慣れておく。（30 分）

復習：課題で時間がかかってしまった操作などを確認する。（30 分）

■ 授業内容

本演習では、インターネットや情報検索など情報処理技術の基本となる知識を学び、情報処理端末であるノートパソコンを用いて、現代の大学生や社会人にとって必須であるワープロなどのソフトウェアの実習を行う。また、薬学分野で用いられる専用ソフトウェアの実習を行う。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1～2	インターネット	・ LAN の仕組み、WWW の仕組み、電子メールの仕組み ・ 情報化社会の危険性とモラル	薬学準備教育 (8) ①③
3～4	情報源	・ 情報検索、情報の種類 ・ デジタル情報の形式、情報の利用と保存	薬学準備教育 (8) ①③
5～6	ワープロソフト	・ 文字入力、文字の種類、書式、編集 ・ 表の挿入、図の挿入、保存形式	薬学準備教育 (8) ② 薬学準備教育 (9) ②
7～8	プレゼンテーションソフト	・ テキストのレイアウト、文字入力、文字の色とサイズ ・ イラスト、図の貼り付け、アニメーション ・ ChemOffice、PyMol の使用法 ・ グループ内でのプレゼンテーション	薬学準備教育 (8) ② 薬学準備教育 (9) ①③
9～10	表計算ソフト	・ データ入力、演算、統計計算、関数 ・ 表の作成、図の作成	薬学準備教育 (8) ②
11～12	WEB ページ	・ HTML とブラウザー ・ Web ページ作成	薬学準備教育 (8) ②③ 薬学準備教育 (9) ①②

■ 授業分担者

A クラス：野口 保、富永 大介（非常勤講師）

B クラス：野口 保、宗片 のえみ（非常勤講師）

C クラス：野口 保、杉原 稔

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

授業への出席（5%）と各回の課題の評価の合計（95 %）を基に総合評価する。

■ 教科書

『薬学生のための基礎シリーズ8 情報リテラシー』 和田、野口 他 著（培風館）

■ その他

授業形態：持参ノート PC を用いて、Web ページの資料や教科書を参照しグループで実習する。講義支援システム（MY-CAST）によるチーム基盤型学習（TBL）、提出課題などで習得状況を確認